

AAFCに令和5年9月に入会しました白井市の中村です。

AAFC(我孫子オーディオファンクラブ)を知ったのは、月刊誌[無線と実験]に記載されているのを見てホームページを閲覧し色々開催されていることを知り、何度か伺いしてそろそろAAFCに入会時期と思っておりましたらコロナ禍になり、入会を断念しましたが、ようやく入会することができました。

入会の目的は、今までは音楽を聴くのではなく音を聴いておりましたので、音楽とオーディオの知見を広める為に入会いたしました。

真空管オーディオに入るきっかけは、専門学校で5球スーパーラジオを作り、より良い音を聴くにはどのように改良すればより良い音が出るのかが始まりでした。

最初は、外付けスピーカーから始まり、セラミックカートリッジでレコードを聴いたりしていましたが満足できず、実体配線図を見ながら6BQ5PPモノラルアンプ作りましたが、スピーカーからピーピーガーガーと音が出る始末でした。

今思うと、KNF回路を理解することができなかった。

NHKが第1と第2放送でステレオ放送開始していたころ、6BQ5シングルステレオアンプを作り雑音なく何とかまともな音が出てくれましたので、スピーカーとセラミックカートリッジを用意して、アンプに接続し、ソノシートレコードから出てきた立体的な音に感動したことを思い出しました。

真空管オーディオを本格的に始めたのは、社会人となり製品が買えるようになり、チューナー(ラックス製WL-313)・真空管プリアンプ(CL-35)・レコードプレーヤー(ベルトドライブ+ダブルアーム)・スピーカー(パイオニア製型式不明)と少しずつ買いそろえていき、メインアンプは自作で満足して聴いておりましたが、当時の雑誌にマルチチャンネル方式が称賛されており、マルチチャンネル方式を導入したいと最初に取り組んだのが、マルチ接続可能なスピーカー(コーラル製BX-710)・3チャンネルデバイダー(ラックス製FL-153)・メインアンプは同じものを3台自作(6CA10PP)してしばらくはマルチ方式で聴いておりましたが、低音・中音・高音の音の各レベル調整が確認できるように基準となるスピーカーとして、三菱電機製のモニタースピーカー(2S-305 中古)購入し、マルチチャンネル方式の音とモニタースピーカーの音を比較しながらマルチチャンネルの各音量調整をしている日々をすごしておりました。

ステップアップとして、2S-305の低音スピーカーを使い低音以上をホーンスピーカーで構成できないか雑誌等を見ていると、YL音響から比較的low価格の製品があり、聴いたことがないホーン型スピーカーの音を聴くためにYL音響の視聴室に伺い、初めて聴くホーン型スピーカーの音は、高音域がさすがに透明感があり低域は軽やかにスーと出る感じでした。最後に参考にと吉村貞男社長が冊子「YL音響のホーン型スピーカーの解説書」を頂きました。

購入したのは、中低音はYL音響のD-5500+MB-90 II 中高音はD-3500+CO-800 高音は

D-1800 を購入しホーンを取り付ける台を作りました。低音は 2S-305 を使用して中高音と高音はネットワークを使用して3チャンネルマルチで、満足して聴いておりました。小型のスピーカーでマルチチャンネルにも対応している製品を検討していると、日立製HS-500 という自分の好みのスピーカーが見つかり購入し時折マルチでも聴いておりました。



栃木時代のシステム80インチ

まりの良い音になり満足して聴いておりましたが、低音域が弱く感じるようになりマクソニックの 38 cmウーハーに入れ替えにまとまりが出てきました。(栃木時代のシステム)

この頃には、メインアンプは 4 台新作(6CA7PP[®])となりました。一時期 4 ウェイネットワーク方式を試みました調整が難しくまとまりがつかず鳴らしきれず諦めました。(スピーカーの難しさを感じました)

1985 年に三菱電機よりダイヤトーン生誕40周年記念としてDS-10000 というスピーカーが発売されましたが、当時は高額のため購入できませんでしたが何とか中古で購入出来ました。

3 チャンネルマルチで満足して聴いておりましたが 4 チャンネルマルチで聴いてみた4 チャンネルデバイダー (SONY製TA-D900)を導入しネットワークを介さずすべてのスピーカーがアンプと直接つながり中高音はま



6CA7PP 三極管接続

当時の音楽ソースは、レコードかFMラジオぐらいでしたので、FM放送を録音するため「FMレコパル」番組雑誌で番組をチェックして、FM放送を 7 号オープンリールデッキに留守録音をしていましたが、当時の放送は 2 時間で 7 号テープでは 1 時間 30 分しか録音できず 2 時間録音できる 10 号オープンリールデッキを購入しました。

こんなこともありました、カラヤン指揮ウィーンフィルの来日公演コンサートを聴きに行くためにチケットを購入、番組雑誌を見ると、コンサート当日にNHKFM放送で生放送するとのことで、留守録音をセットして、コンサート会場で生の音を聴き、翌日録音を聴きましたが会場の雰囲気ぐらいかな？今は無きテープです。

録音機器の進化でデジタル録音ができるDATの普及に伴いBS放送ではデジタル音声(Bモード)放送が始まり録音はDATテープに変わりつつありました。

DATテープの録音時間は最長 3 時間ありましたので歌劇の録音には重宝しました。

以前録音したオープンリールテープはDATへ保存しました。

DSDに保存できれば良かったなー

映像系に入るきっかけは、テレビ放送の映像と音声記録できるビデオデッキを購入し、ベータ方式で記録・保存ができるようになってからです。

記録できるビデオデッキもHi8mmビデオ・SVHSと変わっていき、BSアナログハイビジョン放送の時代となり対応ビデオでの録画・録音となり、画像は鮮明で音もよかったです。(映像はアナログ・音声はデジタル録音だったと思う)

記録媒体がブルーレイに変わってから、録画セットが簡単になると保管スペースが少ないので自然にブルーレイディスクの量が増えていきました。以前にアナログで録画・録音していたビデ

オテープを時間がかかりましたが、ブルーレイにダビングしました。

現在は、NHKBS4K放送のプレミアムシアターをHDDに録画して視聴しております。残したいものをブルーレイに保存しています。

最初のプロジェクターは、シャープ製XVP1・スクリーンは 60 インチで画面比率は 4 対 3 です。当時は、解像度が良くないのであまり見ていませんでした。

ハイビジョン放送を見るために、パナソニック製TH-AE100 ハイビジョンプロジェクターとスクリーンは 80 インチで画面比率は 16 対 9 を購入、簡易型のプロジェクターでしたがハイビジョンらしくきれいに見えるので、歌劇・バレエ等を良く見ておりました。

特に歌劇は、音楽のみと違い映像・字幕があり劇の内容がより理解できました。

プロジェクターは、フルハイビジョンのエプソン製EH-TW6600 に変わりました。

現在は4Kプロジェクターと 100 インチスクリーンで視聴しております。



真空管アンプの製作面では、東芝が作った 6G-B8 が好きで製作品は、ビーム接続KNFモノラル・ULKNFステオ・三結ステレオの 3 機種を作り半導体アンプを加え4台を映像系のメインアンプとして、ジャンルにより切り替えて現在使用しております。上記のステレオアンプ 2 台はマルチチャンネル用で使用して

6G-B8PP 三極管接続 いたアンプを改良したものです。

映像系のスピーカーはフォステックスG2000aです。

ステレオ用としては、KT88PPULステレオ・300BPPトランス結合モノラル・6CA10PPKNFステレオ・半導体アンプの 4 台を切り替えて現在使用しております。



KT88PP UL 接続



300BPP イントラ モノ

ステレオ用のスピーカーは、DS-10000・HS-500・NS-330・NS-1000mmをアンプとスピーカーを組み合わせで聴いております。

その他 KT88PP①AB2ドライブモノラル・6CA7P P①ステレオ・300Bシングルステオ・ラックスキットA 3700 を保有しています。

制作面でメインアンプ以外では、以前に 6CA10 シングルプリメインアンプを作りましたが、久しぶりに真空管式プリアンプを作りました。回路はCR型フォノイコライザー・SRPP回路・トーンコントロールなしで作り、イコライザー特性・周波数特性もまあまあの特性が得られました。



プリアンプ

2016年10月2日我孫子アビスタ大ホールで開催されたAAFC主催のオーディオコンサートに行き石田会員の日立製HS-500をデジタルアンプで鳴らした音を聴いて、家にあるHS-500をマルチで聞きたくなり、真空管式で3.5KHzクロスとして減衰スロープを-12dBの2チャンネルデバイダーを作り、特性を測ると周波数特性は3.5KHzクロスで-6dBと良かったのですが音は普通でした。会場のような音は出ませんでした。



現在のリスニングルーム



現在のリスニングルーム

リスニングルームは、埼玉県川口市(実家)⇒栃木県栃木市(旧大平町)⇒千葉県流山市⇒印西市⇒現在白井市と居住場所により各機器の設置するスペースが異なりオーディオ+映像系スペースを確保するのは大変でした。

現在のリスニングルームは、マイルームとして防音装置を施した約11畳の部屋に真空管オーディオ・映像系の各機器を設置して視聴しております。

音楽を聴くシステムの音源として、LP・CD・DAT・DSD・FMIにMDです。

映像系の視聴システムのソースは、2K・4KのブルーレイレコーダーとDAコンバーター(CD使用)です。

写真－上段は音楽を聴く時、中央はプラズマテレビ
写真－下段はビデオ視聴時、100インチスクリーン

真空管アンプを作るのにあたり自分なりの考えで作っております。

* シャシーの大きさは、納めるラックに収納できる大きさとする。

* 各 부품の電源スイッチ・ポリウム・パイロットランプ・入力端子・出力端子・AC入力端子等の配置は統一性を持たせ、特にスピーカー端子は統一性を持たせることによりアンプを入れ替える

時にスムーズに入れ替えが出来ます。

* アースは2点とし、回路全体のアースが1点と整流回路の最初のコンデンサーのアースが1点を別々にとる。

* 電源回路の電流容量は製作記事より電流容量に余裕があるものにする。

* 製作記事のデットコピーでなくオリジナルを取り入れる。



6CA7PP 三極管接続 調整

最後に、真空管アンプの製作は現在予定しているアンプを最後にして、これからは今まで自作したアンプの改良・メンテナンス及び今まで録画(2K・4K)したブルーレイの視聴に、昔(ビデオ)の録画・録音したカラヤン・カールベーム・バーンスタイン・クライディオアバド・ショルティエなどの指揮者等の音ではなく音楽として聴こうと思います。

「つれづれの記」を書き終えて思ったこと

- YL音響のスピーカーとは約40年間一緒にいて心地よい音をいつも聞いていた思い出がありましたが100インチスクリーンを設置するため平成25年8月に手放しましたことを思うと……
- 最初に購入したラックス製チューナーWL313と真空管プリアンプCL-35は約50年たちましたが現在リビングで時々聴いています。この2台は残しておきたいと思います。
- 各機器の購入や機器を手放した年月が最近のように思えるが、YL音響のスピーカーを手放して10年経過していたことを思うと、年数の経つのが短く感じました。

最後に私事ですが、軽度の難聴ですので会話時に聞き返すことがあります、その時は少し大きめな声をお願いします。



京都金閣寺にて



最初に購入した残したい製品



リビングのオーディオ

